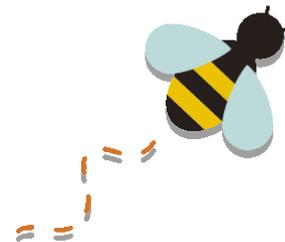


一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト 2017 年度 助成企画公募のご案内 ～ ネオニコチノイド系農薬に関する企画 ～



一般にはあまり知られないまま、お米から果物まで、ときには「減農薬」の切り札として用いられ、シロアリ駆除剤や防虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいるネオニコチノイド系農薬（フィプロニルなどを含めて「浸透性殺虫剤」とも総称）。有機リン系農薬の代替物として1990年代に開発されて以来、国内外を問わず使用が急拡大するネオニコチノイド系農薬は、その浸透性・残留性・神経毒性から、ミツバチの大量死が示唆するように生態系と生物多様性全体を脅かすばかりか、子どもたちの脳の発達にも悪影響をおよぼす可能性が指摘されています。

EU での使用禁止措置をはじめ世界的に研究や規制が進んでいますが、日本では各地で民間の削減努力が生まれつつある一方、全体的にはいまなお規制緩和の方向です。本助成は、予防原則を踏まえて、浸透性殺虫剤の被害を防ぎ、規制のあり方や一般市民の消費行動を変える働きかけ、浸透性殺虫剤の影響を市民の立場から検証する調査・研究、そしてすでに多くの環境化学物質と放射能に取り巻かれた私たちが、浸透性殺虫剤にどう対処していくべきかを探る公共的な議論喚起など、問題解決に向けた効果的な取り組みを支援します。ふるってご応募ください！（応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ）

<http://www.actbeyondtrust.org/program/kobo2017/>

1. 応募資格：ネオニコチノイド系農薬（およびフィプロニル）に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体（ボランティアグループ、NPO/NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問）
2. 助成金額：総額 300 万円
以下の 4 部門を対象としますが、部門ごとの採択数・金額配分はあらかじめ設けません。
 - a) 調査・研究部門
 - b) 広報・社会訴求部門
 - c) 市場“緑化”部門
 - d) 政策提言部門
3. 助成対象期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日の間に実施される活動
4. 応募受付期間：2016 年 12 月 19 日（月）～2017 年 2 月 10 日（金）消印有効
5. 問い合わせ先：一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係
電話：070-6551-9266（10:00～19:00）
Email：grant@actbeyondtrust.org
<http://www.actbeyondtrust.org>
<https://www.facebook.com/actbeyondtrust>



一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記ホームページや Facebook をご覧ください。

各部門の企画例

各部門について、具体的にはどのような内容が考えられるか、企画例をご紹介します。

これまでに実施された企画は、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「助成プログラム」(公募助成)をご参照ください。2015 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2016 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。

<http://www.actbeyondtrust.org>



調査・研究部門:

大学や公的機関の助成に乗りにくい、一般市民の視点に立った独立性の高い調査や研究のプロジェクトなど

これまでわかっていることは何か、データが欠落していて調査が必要なことは何か……欧米の研究ではカバーされにくい水田施用による生態系影響や、水道水への残留、シロアリ駆除剤の健康影響など、私たちの生活に直結する問題に関する知見を広く募集します。

採択企画例: ネオニコチノイド系農薬の生物への摂取経路と水環境リスクに関する研究及び啓発～金目川水系を例にして～(2016)／哺乳類末梢・中枢神経系におけるイミダクロプリドの神経毒性に関する薬理学的研究(2016)／空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査(2013)／ネオニコチノイド系殺虫剤による水田生態系への影響評価(2012)

広報・社会訴求部門:

ネオニコチノイド問題をより多くの人びとに伝え、どのように対処していけばいいかをともに考えるプロジェクトやメディアを巻き込んだ対話など

ネオニコチノイド系化合物の生態系や人体への影響について、科学的研究は進んでいますが、一般への認知はまだ進んでいません。科学者の警鐘が一般に広く知られるためにはどうしたらよいか、多様なアプローチを期待しています。これまで、絵本、ミュージカル、地域での自然観察会や映画祭などの企画が実施されました。

採択企画例: つなげたい! ひろめたい! ミツバチまもり隊! (2015)／生きもの元気米(生物多様性認証米)の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大(2014)／ミツバチからのメッセージ(2013～2015)／ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト(2012～2013)

市場“緑化”部門:

生産者、流通業者、消費者にまたがるネオニコチノイド系化合物の利用経路に沿って、被害を最小化するためのプロジェクトなど

ネオニコチノイド系化合物を使わない安全な農産物を手にするためにはどうしたらよいか……消費者への働きかけ、生産者への働きかけ、地域への働きかけのそれぞれにおいて、戦略的な取り組みを期待しています。

採択企画例: 農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発(2015)／集落営農によりつくるネオニコフリーエリアと田んぼトレーサビリティへの取り組み(2015)／ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進(2012～2013)／「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bio アナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築、及びそれらの実績の公表(2013)

政策提言部門:

農薬をめぐる規制や利権構造のあり方を変えていくために、中央と地方の政府および議会、製薬会社、JA といった関係者に働きかけ、一般市民や地域住民と協働するプロジェクトなど

地域の生産者の声を反映した取り組みもあれば、国会議員に向けた院内集会の開催や、ウェブを使った全国での署名集めなど、さまざまなレベルでのアドボカシーが試みられています。全国規模で、またあなたの地域で、可能なアクションを提案してください。

採択企画例: 浸透性農薬が生物多様性と生態系に及ぼす悪影響に関する「世界総合評価」(WIA)の成果普及と議論喚起(2014)／ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり(2013)／斑点米カメムシ類による経済的損失回避策の転換に関する秋田県への要請(2013)／有害農薬の規制を目指す持続可能な農業キャンペーン(2013)

参考:「ネオニコチノイド系農薬の危険性を、科学者が警告しています。」

2016 年 4 月時点で、ネオニコチノイド系農薬に関する科学的知見を abt が独自に整理し、市民活動などに際して確実に言えることと、その参考資料を厳選して、わかりやすくまとめたものです。活動計画の手がかりにご活用ください。

http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/04/tsuikakobo_kikensei_2016.pdf